5.「学びの成果が評価される社会」の構築に向けた取組の推進

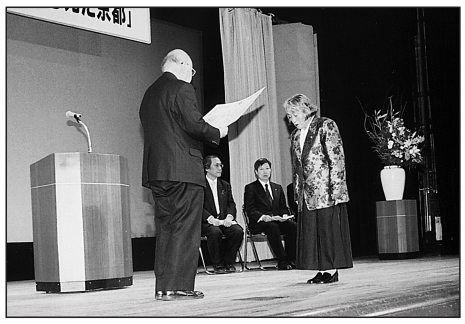
顕彰制度等の新設

学びの成果が社会に評価され，新たな活動の動機付けをするため

1 “表彰制度”の新設
2 “生涯学習パスポート制度”の新設
3 “生涯学習ポートフォリオ”の推進

1　表彰制度の新設

生涯学習活動において，「功績があった方」や「学びを進め他の模範となる方」を顕彰することで，「生涯学習のまちづくり」を進める。

	趣旨及びスケジュール
活動支援者に対する顕彰制度	1　趣旨 永年にわたり，事業運営のボランティア活動や事業運営の実務をとおして，市民の学習活動の支援に貢献された方に対して表彰する。 2　対象 平成18年度については，パイロット事業として「京都市生涯学習市民フォーラム」加盟団体から推薦を受けた。 3　内容 ①ボランティアに対する表彰 概ね10年以上にわたり，「京都市生涯学習市民フォーラム」加盟団体において，ボランティアとして，市民の生涯学習事業の運営に貢献された方 ②職員に対する表彰 概ね20年以上にわたり，「京都市生涯学習市民フォーラム」加盟団体の常勤又は非常勤の職員として市民の学習活動を支援する事業の企画及び運営に貢献された方 4　スケジュール ○平成18年 京都市生涯学習市民フォーラム総会で表彰を行った。 日時：平成18年12月22日（金） 会場：京都産業会館シルクホール ○平成19年度以降 パイロット事業を再点検し，新たな事業として継続して取り組む  「京都市生涯学習推進者表彰」
実践者に対する顕彰制度	1　趣旨 生涯学習に関する目標や計画を立て，自ら学びを進めた市民を顕彰する。 2　内容 生涯学習パスポートを活用するなどの方法により，自らの生涯学習を進め，一定の単位取得された市民を表彰する。 学習の進み具合により，10段階の表彰を行う。 3　スケジュール **平成19年度** ・生涯学習パスポートの作成・配付 ・生涯学習認定表彰制度の創設 定められた単位を修得した方を表彰 **平成20年度以降** ・生涯学習認定表彰制度を継続 ・人材バンクなど実践者の学習成果の発表の場の創設を進める

2　生涯学習パスポート制度の創設

個々人の学習成果を記録し，学習履歴や到達度を振り返ることが出来る「生涯学習パスポート（生涯学習記録表）」を作成し，様々な場面において学習効果を広く活用できるようにする。

（１）イメージ

目　　標	地域の先生になる	学習記録
学 習 歴	高校歴史探訪クラブ	日　時　　2006年10月10日 14:00～16:00
職　　歴	青空新聞社（6年間）	
ボランティア歴	文化ボランティア	講座名　博物館公開講座
地域活動歴	子育てサークル運営	場　所　雅歴史博物館
資格リスト	英語検定3級 京都検定2級	感想・特記事項 開館したばかりの，博物館で室町時代の文書が興味深かった。文書の意味が分かればもっと理解できるはず。今度，古文書講座を受講しよう。
学習活動歴	アスニー講座（H11～	
表 彰 歴	万葉講座受講皆勤賞	
自己評価	座学ばかりなので、 実体験を多くする	取得単位　１単位

（２）記録内容

①　基本項目

目標（生涯学習を通じてどのような自分になりたい記入）			
学校での学習歴	職歴	ボランティア歴	地域活動歴
学校外での学習活動歴⇒通信教育，民間カルチャー講座等受講歴			
資格リスト（学位，国家資格，公的私的資格，検定合格，認証等）			
出場記録（スポーツ大会や文化大会等の参加歴）		表彰歴	
自己評価（生涯学習を通じて自己の成長の記録と次の目標を記入）			

②　学習記入項目

日　時	講座名（公開講座名や博物館名）	受講内容や感じたこと

③　学習対象

自治体や公民館等が実施する講座，民間カルチャー講座等			
大学が提供する生涯学習講座（「京（みやこ）カレッジ」等）			
博物館等入場及び公開講座…博物館連続公開講座，ミュージアムロード			
ビデオコンテンツ学習	教養テレビ番組	ボランティア活動	地域活動
各種養成講座（生涯学習コーディネーター，子育てサポーター養成講座）			
検定（京都検定，ジュニア京都検定，漢字検定，英語検定等）			

（３）単位認定　　パスポート１ページ記入ごとに１単位とする

（４）記入方法　　自己記入を基本とする。講座等の内容を記入することで確認

（５）活用方法案　　①表彰制度の基礎資料として活用
②人材バンクとして登録
③生涯学習コーディネーターとして委嘱

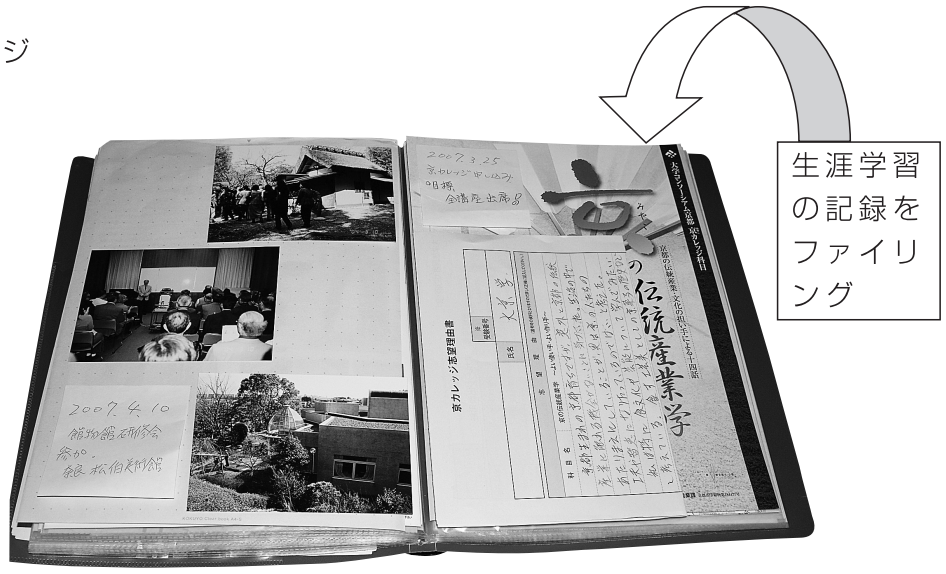
3　生涯学習ポートフォリオの推進

（1）趣　旨

一人ひとりの生涯学習の記録をまとめたものが「生涯学習ポートフォリオ」と呼ばれるものである。バインダー式のファイルに時系列に講座のレポートや写真を封入し，学習成果を振り返るとともに，今後の学習計画に役立てる目的で作成される。

欧米では活用されているが，日本では認知度が低いため，その考え方や活用方法を紹介するため，マニュアルを作成し，広く市民に広報する。

（2）イメージ



（3）使用手順

①Ａ４程度のクリアファイル(袋形ビニール製)を用意する。

②生涯学習記録（受講証，レポート，写真等）を実施順にファイルへ入れる

③一定期間経過（１年経過など）した後で，これまでの生涯学習を振り返り，どのような成果があり，自己成長したかを考える

④新たな学習計画を立てる

⑤新たなポートフォリオを用意し，①の手順に戻る

（4）活用方法

自分自身の生涯学習をまとめ，成長の記録を振り返り，今後の学習方針を立てるのに役立てる。

また，欧米では，大学入試や就職活動においても各自の生涯学習成果の集大成として自己アピールにも活用されており，日本においても幅広い活用が期待される。